

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20 年1 月9 日
調査実施の時間	開始 10 時 分 ~ 終了 15 時 分

訪問先事業所名 (都道府県)	特定非営利活動法人EOSグループホームあけぼの (福島県)
-------------------	------------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>鹿島丈夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>山田みき子</u> ヒアリングを行った職員数 (2)人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	792730012
法人名	特定非営利活動法人E O S
事業所名	グループホームあけぼの
所在地	福島県大沼郡会津美里町下堀川字中川46番地 (電 話) 0242 - 54 - 5002
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年1月9日

【情報提供票より】 (平成19年12月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8.53

(2) 建物概要

建物構造	木造折板葺平屋建 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (12 月 30 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	要介護2	1		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 81.7 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高田厚生病院 福田歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>立地は街の中心地から少し離れ、人や車の往来が少ない静かな環境である。開設されてまだ1年に満たないホームであったが入居者はホームでの生活になじんでおり居心地の良い雰囲気が感じられた。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>初めての評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>各項目を全職員がそれぞれに評価し、自己評価への理解はできているが中身についての話し合いは不十分である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)</p> <p>運営推進会議開催されてまだ日も浅い。今後の開催時の活発な話し合いに期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>まだ開設して日も浅いこともあり家族から意見を引き出し運営に活かす取り組みは積極的には行われていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>町内会の会員になり地域の住民としてのスタートを切っている。地域の行事などにも参加しており今後の地域との連携が期待される。</p>

2. 調査報告書

主任調査員氏名 熊谷まゆみ

／ 同行調査員氏名

鹿島丈夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が心穏やかに楽しく安心して暮らせるよう「癒しと安心」の理念を掲げているが地域の一員としての理念はつくりあげていない。	○	地域密着型サービスとしての理念を付け加えて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々の実践に結びつけられるよう意識している。		理念の具体化を共有できるよう話し合っ て欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも入会し、地域の一員として地域の行事や催しものに参加している。		広報を発行し隣近所への配布も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての取り組みであるが職員全員が自己評価に参加している。		自己評価について内容を深めるよう職員で話し合っ て欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年11月に組織され活動がスタートとした。		今後改善計画なども提案し活発な話し合いになるよう期待したい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や月1回か2回電話で近況を報告している。	○	毎月定期的に報告できるようなシステムを作って欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見受付箱を設置し記録する用紙も用意されている。		寄せられた苦情・意見を職員で共有しケアに活かす工夫も考えて欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来変わっていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修の機会が少ない。	○	年間の研修計画を作り実践して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要があれば近隣同業者と情報交換できるが連絡協議会には入会していない。	○	県や会津の連絡協議会に入会し情報交換、研修の機会を多くして欲しい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や生活習慣、園芸などお年寄りから教えてもらう機会が多くある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部センター方式も取り入れ記入が始まっているが日々の気づきや、把握した生活歴などの記録の整理、職員間での共有が充分でない。	○	入居者の思いや気づきを職員で共有し、人物像を膨らませる工夫が必要である。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員で話し合っって計画を作成している。「居宅介護支援経過」を記録し計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間や必要に応じて計画の見直しがされている。見直しの際家族や職員間で話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を大切にしている。家族と受診する場合は医療機関に十分な情報を提供し、結果の報告も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについては検討されていない。	○	すぐに実施は困難と思われるがどうしたらできるか前向きな検討が必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけや対応は穏やかで親しみやすく、個人情報ファイルは書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが思いのまま、お気に入りの過ごし方をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながら毎日日替わりでメニューを決め食材購入、調理、後片付けも一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜から土曜まで朝から夕方まではいつでも入浴できる状態になっている。		夜の入浴も検討して欲しい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	調理の手伝い、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ボードに毎食のメニューを書くなどできることをやりたい人にやってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩や食材購入、ふれあい市など日常的に外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていないがドアの開閉が察知できるように音が出るものを設置してある。隣近所にも見かけた場合の連絡をお願いしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や救命講習を受ける計画があり消防署との連絡も取れている。		避難訓練を近所の人と一緒に取り組めるよう期待したい。非常口はすぐに開けることができるようにしてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時折メニューや摂取量など栄養士の指導を受けている。水分管理もチェック表で一人ひとり把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間には炬燵、ソファ、テーブルがおかれ、南と北両方の広いガラス戸を通して季節感のある自然の風景が見渡せる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台や箆笥、テレビなど置かれ自宅のような生活空間の居室もあった。		実態調査のときに家族に理解を求め入居と同時に持ち込んでいただく工夫をしてほしい。

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム あけぼの

記入担当者名 管理者 山田 みき子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。